

『思いや得意を仕事にする～新しい働き方フォーラム～』

2024年11月9日(土)

場所：かながわ労働プラザ

第1部 まず、厚生労働省労働者協同組合業務室長の^{よねおかよしてる}米岡良晃氏より、「地域づくりを仕事にする新しい働き方 労働者協同組合」と題して、大和市の労働者協同組合キフトなどの事例紹介も交えながら、概要の説明を受けました。

米岡氏は、労働者協同組合は幅の広い使い道があり、今後の可能性を拓げるもので、副業・兼業という働き方や自治会・地域おこし協力隊による地域コミュニティ活性化、シニア世代の健康・生きがい・仕事おこし、ケアワーカーによる自分らしいケアの追求というニーズが見えてきていると話されました。

続いて、労働者協同組合創造集団 440Hz^{ヘルツ}の長井岳氏と労働者協同組合上田の北澤隆雄氏よりの事例報告がありました。

440Hz は不登校・ひきこもりの経験を持つメンバーで構成されています。一般の働き方の枠組みはきつい、自分が働きやすい働き方なら働けると労働者協同組合をつくられました。「協同労働の魅力、それは、私とあなたを同時に尊重する働き方」と長井氏はおっしゃいます。



440Hz 長井氏の事例報告

上田は、「少子高齢化社会のなかで元気なシニアが地域の困りごとを解決する担い

手として活躍する、新しい地域社会の仕組みを創ろう、その潜在的労働力に新しい働き方で活躍してほしい」と発案しました。「これからは個人・団体・組織にこだわらず横のつながりをつくっていくこと!!」「これまでの社会の仕組み(縦糸)に自分たち(横糸)を編み込んで、編まれた布で地域社会を優しく包み込むことこそ持続可能な地域社会の実現につながる活動だ」と北澤氏の力強い言葉がありました。

第2部 グループに分かれてワークショップを行いました。行政、労働者協同組合のメンバーなど多様な人が参加し、自己紹介、登壇者への質問と、それぞれのグループで話が盛り上がりました。



事例報告を受けてのグループセッション

ワーカーズ・コレクティブが培ってきたお互いを尊重しあう「協同労働」が、「新しい働き方」として持続可能な地域社会をつくる可能性を持つことを改めて感じるとともに、就労支援でそれらをつなぎあわせるワーカーズ・コレクティブ協会の活動の意義を新たに想わせるフォーラムでした。

(よしだ みさこ)